

支援事例

商工会名	上天草市 商工会	氏名	西村裕樹	情報開示の可否	可
支援テーマ	持続化補助金	題名	事業承継からの持続化補助金へのチャレンジ		
	事業承継				

<支援企業の概要>

事業所名	森木工所	従業員	2	人	創業/ 会社設立	創業日	1968年4月1日
業種	木工製造業	うち家族従業員	2	人		業歴	56年11ヶ月

○企業概要

上天草市大矢野町において昭和43年に現代表者の祖父が創業、平成8年に父が事業承継をし、令和5年7月父より事業承継し、個人事業主として開業。

創業55年、3代続く木材製造業「森木工所」として襖や障子の張り替えや部屋のドアなどの建具の製造販売を行っている。事業主は高校卒業後2年間の建具製造の修行を経て、森木工所に従事。

現在父が外回りをし、修理依頼の商品を回収及び取り付けをし、事業主が工場で修繕・製造を行っており、事業主の妻が経理を担当し、家族3名で経営している。

○支援のきっかけ（相談内容）・支援前の課題

「支援のきっかけ」

前事業主の父より息子に事業承継をし、責任感や自覚を持ってもらいたいと相談を受けた。現状の営業スタイルでは前事業主の知名度により事業が成り立っているが、薄利多売となっているため、経営方針から見直してほしいと要望。

「短期的計画」

持続化補助金の申請に伴う事業計画の策定により、これまでの事業の見直しや課題の発掘を行う。

「中長期計画」

現事業主の経営スタイルの確立、新たな販路開拓

「現状分析」

現事業主は父が営業で持ってきた仕事の作業員となっており、父が亡くなった後のビジョンが見えていないため、事業計画策定による今後の経営方針の設定を行う必要がある。

○支援内容および支援後の状況・効果

「事業承継」

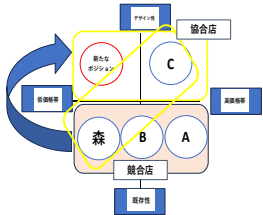
特任指導員とペア巡回し、支援を行った。特段問題もなく、親族内承継であったため、開廃業の対応のみで手続きを完了した。

「持続化補助金の申請支援」

これまでの森木工所での企業概要や前代表の経営方針などをヒヤリングしながら作成し、現代表者のこれからの思いや方向性を整理してまとめていった。持続化補助金の活用により刻印機を導入し、ネット販売などこれまでの販売方法の見直しなどを取り組んでいく方針を事業計画により見える化していった。また、競合店の状況なども整理しポジショニングマップを作成して価格帯やデザイン性などで狙い目のポジションの製品や、競合店の中からポジションが合わさらない事業者とコラボ商品などで協合店として製品を製作してみてもと助言した。事業主が考えるイメージとポジショニングマップ、これまでの事業を踏まえて今後の経営方針を制定した。



「左：代表者 右：先代」（父）



○今後について（目標や課題など）

持続化補助金は採択をいただき、実績報告まで完了を支援した。

また、商工会で開催するセミナーへも積極的に参加をし、今後の事業展開に向けて知識の習得を行っている。

しかし、刻印機の有効活用できる製品までは製作できていないため、代表者の妻より相談を受け、支援中である。

目印となる事業計画を策定しているため、今後の展望と検討していた計画とで軌道修正しながら現代表者の地域での地位を確立できるよう支援していきたい。